



支え合う社会

特集

- 児童福祉の現場から
- どうする？高齢期の運転



◆ 新任期がスタート

私たちの会派は4月の統一地方選挙を経て「民主改革さいたま市議団」に会派名を改め、最大会派となる17人で今任期をスタートしました。新人3人が加わったことにより、立憲民主党・国民民主党・社会民主党所属および無所属議員での会派構成となったためです。多様な価値観が尊重されるまち、市民に開かれた議会を実現するため、17人で力を合わせ責任ある議会運営に努めていきます＝中面に関連記事。

◆ 11億円の補正予算可決

6月定例会では、いじめ防止のためのスクールロイヤー（弁護士）を活用した法律相談や風疹の抗体検査・予防接種の実施費用など約11億8千万円の補正予算のほか、消費増税に伴う幼保無償化に関する条例案など計36議案を可決・同意しました。

これに先立ち5月臨時議会で正副議長選が行われました。私たちの会派から高柳俊哉が副議長に選出されました。



新しい所属委員会が決まりました!

議会に上程される議案や市政についての課題は、本会議のほかに、常任委員会や特別委員会で、専門的に審査・調査されます。私たちの会派17人の所属も決まりました。

市政へのご意見やお困りごとは、各担当議員へお寄せください。QRコードから議員HP等をご覧ください。(◎委員長○副委員長)



団長

さか もと かつ み
阪本 克己



総合政策
決算/地下鉄7号線延伸事業
議会運営(代表理事)



顧問

たか の ひで き
高野 秀樹



まちづくり/予算
◎オリンピック・パラリンピック競技大会支援/地下鉄7号線延伸事業



副団長

ど い ひろ ゆき
土井 裕之



文教
大都市行財政将来ビジョン
監査委員



幹事長

み かみ たか し
三神 尊志



市民生活/予算
議会改革推進
議会運営



顧問

たけ だ かず ひろ
武田 和浩



総合政策
大都市行財政将来ビジョン
都市計画審議会



顧問

こ やなぎ よし ふみ
小柳 嘉文



まちづくり/◎予算
大都市行財政将来ビジョン
議会運営



広報局長

とみ た かおり
富田 かおり



保健福祉
決算(理事)/オリンピック・パラリンピック競技大会支援
議会広報編集



顧問

いず も けい こ
出雲 圭子



市民生活
決算/議会改革推進



顧問

かん ざき いさお
神崎 功



市民生活
政治倫理/地下鉄7号線延伸事業



顧問

そえ の ふみこ
添野 ふみ子



総合政策/予算
◎政治倫理/オリンピック・パラリンピック競技大会支援



副議長

たか やなぎ とし や
高柳 俊哉



保健福祉
◎議会広報編集



顧問

でん だ ひろみ
傳田 ひろみ



まちづくり
決算/大宮駅グランドセントラルステーション化構想
浦和競馬組合議会



総務会長

にし やま さち よ
西山 幸代



市民生活
決算/大宮駅グランドセントラルステーション化構想



政策調査会長

お がわ ひさ し
小川 寿士



保健福祉/予算(理事)
議会改革推進
議会広報編集



顧問

はま ぐち けん じ
浜口 健司



◎文教
オリンピック・パラリンピック競技大会支援



顧問

さ えき か ず み
佐伯 加寿美



文教/予算
大宮駅グランドセントラルステーション化構想
議会広報編集



顧問

まつ もと しゅう
松本 翔



保健福祉
決算/地下鉄7号線延伸事業

9月議会のお知らせ ▶ 9月定例会は9月4日開会、10月18日までの45日間の予定です。

市民に寄りそう「身近な議会」に

さいたま市議会
インターネット議会中継
会議の録画映像を
QRコードからご覧
いただけます。



代表質問



岩槻
IWATSUKI
たかの ひで き
高野 秀樹

基本政策 7 歳を重ねても障害があっても地域で暮らせるまち 高齢者の事故を防止するために

- Q 高齢者の事故が社会問題化している。免許の自主返納を求める声もあるが、返納後の交通を補完するシステムが欠如している。一方、高齢者の事故ではペダルの踏み間違いが重大事故の原因となっており、最近では踏み間違い衝突防止装置も開発されたので、装着に対し助成をしてはどうか。
- A 本市としては踏み間違い衝突防止装置の普及について、高齢者の交通事故防止に有効なものと考えている。今後周知を図るとともに、助成制度については国、県などの動向を注視しながら検討していきたい。

基本政策 4 すべての子どもと若者に夢とチャンス 義務教育学校の設置を

- Q 学校教育法が改正され、義務教育学校が設置できるようになった。現行の6・3制は子どもの成長に合わせたものではなく、不登校やいじめなどいわゆる「中1ギャップ」の原因とも考えられる。学校をひとつところにまとめ、学年制度もアレンジできる義務教育学校の早期創設が必要だと考える。
- A 義務教育学校の設置は教育全体の質の向上の他、保護者や子供たちに対して多様な選択肢の提供につながる方策の一つであると認識している。設置について検討を進めていく。



一般質問



見沼
MINUMA
たけだ かず ひろ
武田 和浩

基本政策 12 暮らしを支え活力を生み出す交通体系の構築と都市基盤整備 駅のホームドア設置推進を

- Q 市内全ての駅にホームドアの設置を望む。ホームドアにはスマート型に見られるようなパイプ式の簡易なタイプもあるが、安心、安全のためにはフルスクリーン型の設置が望ましい。推進をお願いしたい。
- A 人命は何よりも代えがたいものであることから、駅のホームドア設置促進に向けて鉄道事業者への補助を実施しているところ。今後、大宮駅、武蔵浦和駅への整備を予定している。高齢者、障害者をはじめ駅利用者の転落を未然に防止するため積極的に進めていく。

基本政策 10 エネルギーの地産地消の推進とみどり豊かな都市の創造 公園のトイレも洋式化を

- Q 東大宮中央公園、砂中央公園のトイレの老朽化が進んでいる。また、未だに和式トイレのまま高齢の方は利用しにくい。洋式化への早期実現を図っていただきたい。
- A 東大宮中央公園については今年度中に洋式化改修を行い、砂中央公園については令和3年度に洋式化を進めていく。



一般質問



大宮
OMIYA
にしやま さちよ
西山 幸代

基本政策 1 行政の透明化推進と情報発信の充実強化 学校の働き方改革について

- Q 教職員の勤務時間の上限に関する方針の策定、及び、試行的に実施される変形労働時間制について、長期休業中も部活動や研修などがあり負担軽減となるか危惧する声もある。拙速にならないよう留意すべきと考えるが見解を伺う。
- A 方針については、業務内容の精選や勤務環境の整備を含め策定していく。変形労働時間制については育児、介護等の事情のある者は対象外とし、毎年行っている勤務時間に関する意識調査で、負担軽減の実感について検証していく。

※変形労働時間制…成績処理等に従事する期間を繁忙期とし、勤務時間を通常より延長する代替として、長期休業中の勤務時間を短縮する働き方

基本政策 14 誰もが健康で心豊かに文化・スポーツにふれあえるまち 文化芸術の拠点づくりを

- Q 市長もマニフェストに掲げているが、文化芸術都市に向けた拠点整備が必要である。今年3月、さいたま市美術家協会から提出された要望書の内容について伺う。
- A 要望書の内容は、市民会館おおみやの跡地を最適地として、地域振興による各種文化芸術発展の拠点などの役割を担う新美術館建設を求めるものである。現在、拠点機能のあり方を含め各文化施設の再分類について検討しており、検討内容を次期「文化芸術都市創造計画」に生かしていきたい。



一般質問



南
MINAMI
とみ た
富田 かおり

基本政策 11 災害時に命と暮らしをまもる地区防災力の強化向上 災害時用の液体ミルク備蓄を

- Q 災害時に赤ちゃんとお母さんを守るため乳幼児栄養全体を見据えた防災対策が必要。避難所の授乳スペースと相談支援を充実させ、乳児用液体ミルクも災害備蓄品として積極的に導入していくべきだ。
- A 防災倉庫や拠点備蓄倉庫で年間を通じた保管が可能か今年度、温度計測調査を開始した。賞味期限等も勘案し備蓄だけでなく協定等による民間企業からの調達なども含め導入を検討している。女性の視点を避難所運営等に反映できるよう職員配置にも心掛けている。

基本政策 2 市民・事業者等との協働・連携を活かした公共サービス拡充 学校トイレの臭気対策は急務

- Q 学校のトイレ機能が低下し、トイレのにおいが教室内まで漂ってくる小学校もあると聞く。学校環境整備とトイレの適切な維持管理は教育委員会の役割であり、責任ある対応を求める。
- A トイレのにおいは排水機能の低下等が最大の原因と考えられる。根本対策としての大規模修繕、応急的な尿石除去、床の乾式化等を計画的に行うとともに、排水設備の不具合が生じた場合にはすみやかに修繕するなど各学校の状況に応じ、きめ細やかな対策を講じる。



児童福祉の現場から 命を守る体制整備を



子ども家庭総合センター「あいばれっと」

児童虐待の痛ましいニュースが後を絶ちません。関係各機関が把握していたのに虐待死を防げなかった事件を他人ごととせず、子どもの命を守る体制整備をさいたま市でもさらに進めるために、市内の児童福祉施設を訪問し意見交換しました。

西区にある「さいたま西乳児院」。0～2歳の乳児たちは、主にネグレクト(育児放棄)などが入所の理由でした。隣に新設された診療所と密に連携し医療体制を確保していること、養育体制は財政面で厳しいながらも充実を図っていることなどを確認しました。

昨年4月に開設した子ども家庭総合センター「あいばれっと」。1階は誰もが利用できるスペースで、4階に児童相談所(児相)があります。1階に遊びに来た親子が同じフロアにある相談窓口で相談した結果、児相の対応につながったケースもありました。児相には年間約5000件の相

談が寄せられ、うち児童虐待に関する相談が約3000件と増加傾向にあります。児童福祉司1人あたりの児童虐待取り扱い件数は41件ほどで、増員により全国平均並みにはなりましたが、その分狭くなった児相のスペースに課題があることを把握しました。

桜区にある「児童養護施設カルテット」は2004年に開設され今年で16年目を迎える施設。虐待などで家庭生活ができない約60人の子どもたちが自宅のように生活しています。施設退所後も一時的に受け入れるなど、巣立った若者たちの心の拠り所としても機能しています。しかし、国の新しい社会的養育ビジョンでは、家庭的養育を原則とするという理念のもと、里親やファミリーホームなど小規模化へ舵が切れ、急激な方向転換に現場が戸惑う様子もうかがえました。現状を踏まえた計画作りが求められています。

以上のように、私たちの会派は今後もこうした調査を積極的に行い、当事者だからこそ寄せられる声を拾い、緊密な連携を取りながら議会での提案につなげていきます。



1階はフリースペースや総合相談窓口等を設置

どうする？高齢期の運転 日常生活の支援が重要

高齢ドライバーによる重大事故が相次ぎ、埼玉県内でも自動車運転免許を自主返納するケースが増えています。一方、地域事情や身体的状況などから公共交通機関を利用できない方々にとって、自動車は日常生活に欠かせないものであることも事実です。高齢により車を手放し免許を返納した人や、足腰が弱った方々の外出や移動手段を補完するシステムは現在、十分機能しているでしょうか。

埼玉県警は、高齢の免許返納者がタクシー乗車料金を割引で利用できる「シルバー・サポーター制度」を実施していますが、さいたま市独自の助成制度などはありません。私たちの会派は免許返納以外の事故軽減策として、アクセルとブレーキの踏み間違い衝突防止装置の購入補助を提案しています。

そうした中、さいたま市は今年度から、通院や買い物などが困難な高

齢者の移動と日常生活を支援するモデル事業を西区や岩槻区など市内6カ所で始め、今後の事業展開の可能性を検証します。

この事業は、コミュニティバスや乗合タクシーなどの公共交通の導入が難しい地域を中心に、社会福祉法人や地域住民(自治会、任意団体等)が保有する車両などを活用し、地域の各拠点から公共施設や商業施設、バス停などへの送迎を行うものです。モデル事業においての利用者負担は当面なく、必要経費の一部を市が補助します(図参照)。

高齢者の運転事故と犠牲者を減らすために、現行の公共交通事業の推進、安全な自転車走行や歩行空間の確保なども併せ、重層的な取り組みを進めていくべきです。たとえ免許を返納したとしても外出機会が減ったり、その生活が孤立したりすることのないよう、地域で支える仕組みを一層充実させ、安心安全のまちづくりを実現していきます。

高齢者等の移動支援モデル事業



利用者の負担

- 実際の輸送に要する
 - ・燃料代
 - ・駐車場料金など

負担なしとする

移動支援事業を行う
社会福祉法人
地域住民等



さいたま市の支援

- 維持管理費
 - ・利用調整者の人件費
 - ・燃料代
 - ・保険料などの一部

補助